

(2022.7.15)

義太夫教室「入門コース」の再開

義太夫協会会長 原道生

思いがけないコロナ禍の余波を受けて、昨年・昨年と、二年続けて中止を強いられていた「義太夫教室・入門コース」でしたが、さいわい、このところ、一時期よりはウイルス感染の度合いも沈静化してきているものと判断されましたので、去る五月二一日(土)を、第七四期の初日として、三年ぶりに開講をすることといたしました。

もともと、確かに昨今、感染者数の減少が見られはするというものの、いつ又、次の波が襲ってくるかに関しては全く不明としかいえない状態でありますから、これまでと同様、十分に注意を払い、いわば試運転といった気構えで、受講者数や開設課目の規模も縮小しつつ、用心に用心を重ねて再開に踏み切ったという次第です。できれば、今回の試みが、何とか無事好結果へと繋がって、来年以降、前にも増して充実した「教室」の再生・定着

義太夫

義太夫協会会報
第114号

令和4年7月15日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町 3-1-6

日本橋永谷ビル 210

Tel. 03 (6265) 1880

Fax. 03 (6265) 1881

http://www.gidayu.or.jp

が果たされてゆくようになることを、心から念じて止みません。

なお、この「義太夫教室第七四期」と、その約三月前の二月二六日(土)等にも催されました「一日体験教室」の内容に関しましては、この次の頁にも、報告記事が掲載されており、双方併せてお読み下さいませよう。お願いいたします。

○

ところで、今年の五月二一日は、あいにくと開講式の始まる十一時直前の頃、かなり激しい風雨が吹き荒れるに至ったため、私をも含めて出席者一同は、ほとんど傘も役に立たないほどの豪雨に濡れながら、会場である豊川稲荷文化会館の玄関に辿り着くといった状態を余儀なくされてしまったのでした。

ただし、これには一寸したわけが絡んでいるといえるでしょう。というのは、実は私はいわゆる大変な「雨男」。約八十年前の国民学校一年生の最初の遠足が雨で流れたのを始めとして、結婚式も降られましたし、家族旅行や引越なども多くは雨の中、果ては学生た

ちの夏の合宿に同行すると台風に見舞われるといった工合に、何か意義のある催しという不思議に雨を降らせてしまうという異能の持主として、知る人たちは不評を買っている存在なのでした。ですから、折角の再会を喜ぶはずの大切なこの日が悪天候になったのも、きつと私の責任によるものと、皆さんに対して、申し訳なく思いつつ、吹き飛ばされそうな傘の柄にしがみつきながら、お稲荷様の境内を急いで歩いていったものでした。

ところが、その途中、近くにあった狐の石像に気が付いたのと同時に、私には、『義経千本桜』の四の切、源九郎狐の「鼓はもとより波の音。狐は陰のけだもの故。水をおこして降る雨に」という美しくも悲しい一節が思い浮かんでまいりました。そして、その結果、私は、恐らくこのときの風雨も、私自身の異能などという卑小な理由によるものでは無論なく、けなげにも再開へと決断した今回の義太夫教室の前途を、豊川様がことほいで下さる「恵みの雨」と受けとめ、感謝するのが妥当であると考えようになつたのです。

以上、何とも怪しげな無駄話に余計な紙数を費やしてしまいましたが、ともあれ、その後の式のために、やや薄暗い教室に入った私は、少人数とはいえ、この雨の中を集まって下さった受講生の皆さん方の真剣な雰囲気心打たれ、今回の試みの成功を確信するに至ったことでした。この分でゆけば、秋に予定されている「実践コース」も、必ずや順調にゆくことに、間違いはないでしょう。

(2022.7.15)

総会と役員選挙

六月二十七日(月)、ビジョンセンター日本橋会議室において、通常総会が開催されました。当日は左記の議案が付議され、いずれも承認されました。

- 第一号議案…二〇二一年度事業報告
 - 第二号議案…二〇二一年度決算報告
 - 第三号議案…二〇二二年事業計画
 - 第四号議案…二〇二二年収支予算
 - 第五号議案…理事選挙結果報告
- 新役員(役職別 本名五十音順)

代表理事…原道生

理事…上田悦子(竹本駒之助)

小島美恵子(竹本土佐恵)

高橋孝子(竹本越孝)

立花蘭子(鶴澤津賀寿)

丸山あかね(鶴澤寛也)

柳瀬信吾(竹本葵太夫)

義太夫一日体験教室

義太夫教室 第七四期

第七四期義太夫教室入門コースは、五月二一日(土)に豊川稲荷文化会館にて開講いたしました。過去二年はコロナ禍で中止となっており、入門コースの開催は三年ぶりとなります(一昨年、第七三期は実践コースのみ実施、昨年はすべて中止)。

今期の入門コースは講義を中心とし、実技は語りが講師二名(竹本土佐恵・竹本越若)



で二時間ずつと、三味線(鶴澤津賀寿)が二時間行われます。

感染防止のため少人数、マスクをしての開催ですが、受講生は熱心に取り組みれています。

またそれに先立ち、一日体験教室も三年ぶりに開催することができました。

二月二十六日(土)と四月十六日(土)の二回、それぞれ語り・三味線の体験が行われ、久々の開催ながら多くの参加者に恵まれました。体験教室は八月にも開催予定です。

右…原道生会長による講義
左…語り実技(講師…竹本越若、三味線…鶴澤弥々)

竹本越里 新人奨励賞受賞



二月二十日(日)、紀尾井小ホールにて竹本越里新人奨励賞受賞記念演奏会が行われました。

コロナ禍で二度の延期を経て、越里本人は元より関係者一同待ちに待った晴れの舞台、ロビーには多くのお花が飾られ、お祝いの華やかな雰囲気になりました。

越里は受賞記念の演目として『絵本太功記』の妙心寺の段を語り、続く尼ヶ崎の段(前)を師の竹本越若が勤めました。

越里は兵庫県宝塚市出身で、大学院まで中国哲学を研究し、出版社勤務の後にこの道に入りました。

初舞台からこれまでを振り返り、越里は「あつという間に十年経ってしまつたことに焦りを覚えると共に、いつも厳しくも温か



原道生会長(左)より賞状を受け取る越里
右上は当日楽屋にての一枚

(2022.7.15)

く指導してくださる師匠方・先輩方の御恩が改めて身に染みます。これからは、作品を的確に表現できる技術と体力を身につけられるよう精進いたします」と抱負を語りました。これからも暖かい応援をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第五一回 邦楽演奏会

三月二十七日(日)、国立小劇場において都民芸術フェスティバル参加公演「邦楽演奏会」が開催されました。今年も長唄、小唄、常磐津、清元、新内、義太夫、三曲、琵琶、古曲の九つのジャンルが勢揃いしました。

葛西聖司氏によるご案内で、今回のテーマは「邦楽を彩る動物たち」。第三部で竹本駒之助、鶴澤津賀寿が『恋女房染分手綱』重の井子別れの段を演奏しました。

来年の第五二回は令和五年三月二五日(土)の予定で、国立劇場建て替え前の最後の公演となります。どうぞお楽しみに。

新入正会員紹介

本年、新しく六名が、本協会の正会員(プロ技芸員)となりました。二月一日付で、文楽の豊竹呂太夫師と、その門下で大阪を拠点に活躍中の女流太夫四名。四月一日付で鶴澤津賀寿門下の三味線、鶴澤津賀佳が加入しました。以下に略歴と入会に当たったのご挨拶を掲載いたします。

六代 豊竹呂太夫(とよたけろだゆう)



撮影：出上実

一九六七年八月 三代竹本春子太夫に入門、祖父豊竹若太夫の幼名豊竹英太夫を名乗る

一九六八年四月 大阪毎日ホールで初舞台

一九六九年七月 春子太夫の逝去により四代竹本越路太夫の門下となる

二〇一七年四月 六代 豊竹呂太夫を襲名

二〇一七年 第四七回JXTG音楽賞

(現ENEOS音楽賞) 邦楽部門受賞

二〇一九年 大阪市民表彰

二〇二二年四月 切語りに昇格

祖父豊竹若太夫も鶴澤重造師匠も入っておりました伝統ある義太夫協会に、改めて女流の弟子四名と共に入会させていただきました事、誠に光栄であります。すべては義太夫道のため、尽力させていただきたく思っております。どうぞよろしくお頼み申し上げます。

豊竹呂秀(とよたけろしゅう)



二〇〇四年 毎日文化センター義太夫教室受講

二〇一七年 六代豊竹呂太夫師に入門、豊竹呂秀と名乗る

二〇一八年 「第二回瑠璃の会」(国立文楽劇場小ホール)にて『菅原伝授手習鑑』寺入りの段で初舞台

「女流義太夫瑠璃の会」主催の公演やイベントの他、「女流義太夫勉強会 葉呂会」などの演奏会を中心に活動

文楽との出会いは大学一年の夏。それ以来、義太夫節に魅了され続けております。呂太夫師匠が毎日文化センターで義太夫教室を始められると知った時は本当に天にも昇る心地でした。現在も、何より大好きな義太夫節シャワーをたっぷり浴び続けることが出来る喜びに、感謝しない日はございません。この素晴らしい芸能を少しでも多くの方々を知っていただき、次世代に良い形でバトンタッチできるように、一生懸命稽古し、女義としての活動を続けていきたいと思っております。ご指導のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

豊竹呂響（とよたけろきょう）



二〇〇八年 毎日文化センター義太夫教室受講

二〇一七年 六代豊竹呂太夫師に入門、豊竹呂響と名乗る

二〇一八年 「第二回瑠璃の会」(国立文楽劇場小ホール)にて、『菅原伝授手習鑑』寺入りの段で初舞台

このたび義太夫協会の正会員となりました豊竹呂響と申します。

歴史ある協会で、師匠方、先輩の皆様方の技芸の勉強をさせていただき、一層の精進を目指してまいりたいと存じます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

豊竹呂眞（とよたけろしん）



二〇二〇年四月 六代豊竹呂太夫師より豊竹

呂眞を拝命

二〇二〇年十二月 葉呂会にて初舞台。演目は『絵本太功記』尼ヶ崎の段

会社のイベントでお世話になり、ご縁を賜り、義太夫教室に通って十年余り発声練習のご指導を仰ぎました。

二〇〇八年、フランスにて日仏文化交流を開催。お師匠さまには歴史あるブルゴーニュの教会にてゴスペルイン文楽をご披露いただき、現地の方と交流も深めました。

わたくしは十二分に年を取っておりませんが、文楽のことはもちろん、義太夫節のことに關しても無知でお恥ずかしいことこの上なしですが、これからもお師匠様のご指導を今まで以上にしっかりと仰ぎ、ひたすら精進していく所存でございます。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

豊竹呂萬（とよたけろまん）



二〇一八年 毎日文化センター義太夫教室受講

講

二〇二一年 六代豊竹呂太夫師に入門

二〇二二年二月 「第六回 瑠璃の会」(国立文楽劇場小ホール)にて『仮名手本忠臣蔵』鶴が岡兜改めの段で初舞台

この度は義太夫協会への入会を承認いただき有難うございます。

平成二年長野県に生まれ、十八年間水泳一筋で過ごした私は、社会人になるまで義太夫節のぎの字も知りませんでした。右も左も分らなかった私が、義太夫節に惹かれ女流義太夫として踏み出せたことは奇跡のようで、お稽古して頂けること、舞台上演奏させて頂けることに感謝しております。同世代にも必ず義太夫節の素晴らしさが届くと信じ、精進して参ります。

義太夫協会の皆様、関係各位の皆様、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

鶴澤津賀佳（つるざわつがよし）



二〇〇〇年度義太夫教室第五三期修了

二〇〇一年 鶴澤津賀寿に入門

二〇二一年 「おどりの空間」公演にて「三

番叟」で鶴澤美佳としてツレを務める

二〇二二年 義太夫協会正会員となり、鶴澤津賀佳を名乗る

最初は歌舞伎や文楽が好きで見えていましたが、自分でも長い期間かけて少しずつでも成長できることに取り組みたいという気持ちが生まれ、三味線をやってみたいと思うようになりしました。義太夫教室修了後、最初に受けた一日体験教室の講師でもあった鶴澤津賀寿師の三味線に魅力を感じて、稽古に通い始めました。義太夫三味線の出す音の表現の多様さ、語りとの息のやり取りの難しさを教えていただく中で、義太夫節をより深く学びたいと考えるようになりました。

心に響くような演奏ができるよう頑張りたいと思います。義太夫協会及び関係各位の皆様におかれましては、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

地唄舞と義太夫による

リトアニア、ポーランド公演

四月二六日から五月五日にかけて、リトアニアとポーランドにて地唄舞と義太夫による公演が行われました。竹本越孝と鶴澤三寿々が出演し、公演は全て予定通り滞りなく遂行されました(地唄舞は花崎杜季女さん、笛は福原百七さん)。

【リトアニア】

四月二六日 カウナス応用科学大学
* 四月二八日 BLCセンター内ホール
四月三〇日 トライカイ文化センター



アの有名な伝説ですが、今回は旅僧(ワキ)が伝説のエグレの霊(シテ)に出会う、という夢幻能仕立てで詞章を作成し、義太夫節の古典的な旋律に加え、エグレのテーマには教会旋法を施してアクセントとしました。構想から実現まで四年を要し

五月一日 アリートゥウス劇場
五月二日 ドルスキニカイ文化センター
【ポーランド】
五月五日 アジア太平洋博物館

(*は特別プログラム)

上演演目は「三番叟」、「巴」(千野善資作詞・鶴澤三寿々作曲)、「蛇の王妃エグレ」(鶴澤三寿々作詞・作曲、新作初演)の三曲。また、特別プログラム日には、リトアニアの合唱団 Sonetos のレパートリー曲とのコラボレーションも行いました。

二〇二二年はリトアニア共和国と日本の正式に国交を結んでからの友好百周年。世界の平和と五穀豊穰を祈る「三番叟」に続き、日本女性とリトアニア女性がテーマの曲を演奏するという企画です。「エグレ」はリトアニア

たツアーでしたが、日本文化に大きな関心を寄せる沢山のリトアニア、ポーランドの方々に歓迎して頂けたこと、また期せずしてウクライナからの人々にも鑑賞して頂けたことなど、最終実に有意義なツアーであったと感じています。



写真: Emilija Šakalienė (中段)
Evaldas Virketis (下段)

また、東京音楽大学文化庁補助事業推進室より、令和三年度文化庁大学における文化芸術推進事業として書籍「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」が出版されました。この中で「女流義太夫の海外公演実施の経験から」を本名にて執筆しています(以下からダウンロード可 <http://id.ni.ac.jp/1300/00001422/>)。

(鶴澤三寿々)

(2022.7.15)

竹本葵太夫 日本芸術院賞受賞



このたび、当協会理事である竹本葵太夫が二〇二一年度第七八回日本芸術院賞を受賞し、さる六月二十日に上野公園内の日本芸術院にて天皇皇后両陛下ご臨席のもと厳かに授賞式が行われました。

受賞理由は「歌舞伎音楽竹本太夫としての近年の成果に対し」ということで、竹本として初めての受賞となりました。

葵太夫は二〇一九年に国立劇場研修生出身者初の人間国宝認定を受けてからも一層芸の研鑽に励み、端正で重厚な芸は歌舞伎俳優からも絶大な信頼を得ております。また国立劇場養成講師として後進の指導にも惜しみなく力を尽くし、多くの後輩を舞台へと送り

出しています。
今後のますますの活躍を祈念いたします。

竹本葵太夫 たけもと あおいだゆう

一九六〇年 東京都大島町生まれ
一九七六年 竹本越道（女流義太夫）に入門
一九七九年 国立劇場にて初舞台
一九八七年 第三七回芸術選奨文部大臣新人賞受賞

二〇一九年 重要無形文化財保持者個人指定認定（人間国宝）

（一社）義太夫協会理事
（一社）伝統歌舞伎保存会理事

鶴澤津賀寿 ENEOS 音楽賞受賞

六月十五日、第五二回 ENEOS 音楽賞の受賞者が発表され、邦楽部門で鶴澤津賀寿が受賞いたしました。津賀寿の卓越した演奏と多面的な活動が評価されたものです。

授賞式の様子など、詳細は追ってお知らせいたします。

「鶴澤友路師匠の遺産」特別展

鶴澤友路師匠の五回忌に合わせた特別展「人間国宝 鶴澤友路の遺産」が令和三年十二月七日から令和四年二月二十日、兵庫県南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館で開催されました。

友路師匠のご逝去の後、遺された資料は淡路人形協会各位のご尽力、ご遺族のご理解に

よって一括して淡路人形浄瑠璃資料館に寄託されました。

その数およそ三千点。浄瑠璃本だけでも千百冊という膨大な資料を資料館の方々、大阪市立大学の久堀裕朗教授にご協力を頂き、四年半をかけて分類、整理して頂きました。

今回の展示ではそのうちの約百三十点が展示されました。

この写真はその中の一点で「鶴澤友路改名披露会」（昭和五二年）の写真です。左から二人目が八代竹本綱太夫師匠、一人置いて鶴澤友路師匠、六代鶴澤友次郎師匠、一人置いて十代竹澤弥七師匠。この披露会で挨拶された友次郎師匠自筆の挨拶原稿も展示されました。この他、友次郎師匠が亡くなる直前に友路師匠に贈った浄瑠璃本や淡路独自の演目の本、彦六系の本がたくさんあります。



友路師匠が遺してくれたこの資料の数々を、今後の私たちの浄瑠璃の実演や研究に活かしていきたいと思えます。

（鶴澤友勇）



国立劇場楽屋にて、竹本京之助(左)と鶴澤弥々

明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会

四月二三日、国立劇場主催公演、第五三回「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」に『絵本太功記』妙心寺の段(浄瑠璃・竹本京之助、三味線・鶴澤弥々)で出演いたしました。

女流義太夫の出演は十一年ぶりだったこともあり、東京新聞から取材をしていただきました。「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、一九八〇年から続く歴史のある会で、今まで三百人ほどの演者が出演してきたと知り、大変身の引き締まる思いでした。

私たちは同期で、共に見習いを経て、活動してまいりました。同期でも太夫と三味線、一門も違いますが、切磋琢磨してきた仲間です。この度、共に出演できたことは驚きであり、何より大変嬉しいことでした。この経験を糧として、また一層精進してまいりたいと存じます。

どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしく
お願い申し上げます。
(竹本京之助
・鶴澤弥々)

永谷の若旦那こと

押川光範さんに聞く!

都内にお江戸日本橋亭・お江戸上野広小路亭など四つの演芸場と、義太夫協会事務所が入る日本橋永谷ビル等の不動産を所有する永谷グループの押川光範さん。SNSでの発信や次々に新しい企画を生み出すなど、演芸界の注目を集めています。押川さんに今後の展望についてお話をうかがいました。

押川光範 おしかわ みつのり

一九八六年生まれ。永谷グループの創業者、永谷浩司氏を祖父に持ち、母の押川知子社長は箏と三絃の大師範で、子供の頃より和の音に囲まれて育つ。大学卒業後、カメラマンの経験をを経て永谷商事に入社。取締役、演芸場担当。神田松鯉師の講談教室に通い初めて三年目。

編集部(以下、「編」)：約二十年ほど前に、永谷浩司会長とのご縁をきっかけに永谷の演芸場での女流義太夫公演が始まり、現在は日本橋亭で「女流義太夫演奏会」、上野広小路亭で「じよぎ」「ぎだゆう座」を開催するなど、日頃より永谷さんには大変お世話になっております。永谷を継ごうと思われたのはいつ頃ですか? 押川：小学校六年生の時に初めて祖父とゴルフに行き、その際に祖父が「社長として」他の方に接している姿を初めて見ました。その



押川氏のSNSや永谷の演芸場へのリンクはこちら

祖父永谷浩司氏と幼少期の押川氏



頃から、いつか会社を引き継ぐことになるような気がしていました。永谷はグループ会社も含めると、私にとつては大きな会社です。何度も逃げたくありませんでしたが、その度に「私がやらなかったら演芸場はどうなるのか?」と、演芸場のことが気がかりでした。祖父が「不動産は大きな金額が動くけど、一日に千円なり二千元なり、細かいお金を受け取る経験を忘れちゃいけない、という思いもあって演芸場を始めたんだよ」とよく話していました。演芸場がなければ継ごうと思っていなかったと思います。

編：SNS(Twitter, YouTube)での発信や、新企画への反応はいかがですか?

押川：神田伯山先生や桂米助師匠のYouTubeチャンネルに出演した後、Twitterのフォロワー数もぐんと増えました。最近は今全く知らない人に声をかけられることが多くなって怖いです(笑)。「未来の目指す道」への通過点や種まきとして、色々な企画(両派合同講演会、上方の落語家ユニットとのコラボ、しりばず寄席では流派をなるべく混ぜて組む等)をしています。新しい客層が増えつつあるよ

(2022.7.15)



「両派合同講演会」ゲスト出演の竹本駒之助(右)と押川氏

うで嬉しいですよ。編：今年に入り、永

谷主催の「新鋭女流花便り寄席」「しのばず寄席」「両派合同講演会」に女義が出演させていただいていますが、どのような思いからでしょうか。

押川：「女流義太夫は初めて」という

お客様も多く、少しずつ出演の機会を増やすこと、寄席のお客様が女流義太夫の会に行きたくなるようになれば嬉しいです。またそれぞれの出演者相互の交流ができれば、お互いの文化を残すことに繋がるのではないかと思います。祖父の代からの幅広いご縁を次世代に繋げられたらと思っています。

編：最後に、先ほどのお話の中の「未来の目指す道」についてお聞かせください。

押川：近い将来、日本橋ビルを建て替える予定です。例えば着物やお茶のイベントをやつて、和の文化に興味のある大きな層を寄席や演芸の世界に近づけてもらおう、そういう仕組みを作りたいと思っています。その先の二十年、三十年後には、弊社だけではなく、大手の会社が「寄席や演芸の世界に参入しよう」と思うくらい演芸界が栄えていたらいいなと思います。自分の代でそこまでもっていけたらと思っています。

編：夢のある未来のお話にとっても刺激を受けました。本日はありがとうございました。

創作浄瑠璃はこうして出来上がった

あれは確か、今から十八年前二〇〇四年の長月、お月見の会をさせて頂いた時、お食事と演奏が終わってお話の中で後の月のお話をさせて頂きました。

後の月とは、中秋の名月のひと月後に同じ場所満月を愛でると良いと言うお話です。それは、昔から九月十月に掛けて台風がよく訪れる為に農家の人は家を離れないで農作物を台風から守ると言う習わし。

お月見の会から一週間して、お月見に来て頂いたお客様から電話があり、「後の月の会は為さらないのですか?」「こちらは考えてなかったのですが、やりましようか?」と言うことで後の月の会をする事になりました。お月見の会は二丁二枚で「狸々」の演奏でしたが、経費が沢山掛かりましたので、一人で演奏する事になりました。



「団子売」を弾き語り、胡弓でムーンライトセレナーデ、もう一つはお客様に俳句を書いて頂き、それをその場で作曲して弾き語りをする事になりました。

しかし此れがお客様にとっても喜んで頂き、しかもヒントを頂いて「そうか、これなら昔話も浄瑠璃に出来る! 子ども達にも浄瑠璃が解る!」と思いついたのが十月末、大晦日に間に合う様に傘地蔵を作りました。題は「降積雪六傘地蔵」(ふりつもるゆきにむつのかさじぞう)と名を付けて十二月三十一日神楽坂の料亭をお借りして、初の創作浄瑠璃を披露しました。お客様から「こんなに分かりやすくて面白い浄瑠璃は初めてです」と言われて大満足でした。

子ども達の為に作った創作浄瑠璃でしたが大人の方ばかりの会が続く、子ども達に聞いて欲しいと思ってもどうすれば良いのか解らず、築地の小学校に資料を持って飛び込みました。教頭先生が出て来られ、資料を見て「浄瑠璃ですか? 此れは大人でも難しいから子ども達には無理ですね!」で、終わってしまいました。残念。それから年が明けて二月になり節分、鬼は外。そうだ、浜田広介さんの童話「泣いた赤鬼」を浄瑠璃にしよう、小学校の道徳の本にも載ってるらしい。

そうして作ったのが「友情泣赤鬼物語」(ともななきあかおにものがたり)しかしもなさないあかおにものがたり)しかし浜田広介さんの著作権があるらしい。広介さんは亡くなっている、娘さんの浜田留美さんが後を継いで、山形の高畠に在る浜田広介記

(2022.7.15)

念館の館長さんらしい。

早速留美さんにお逢いして「泣いた赤鬼」を聞いて貰う事にした。留美さんから「世に出しても良い」とOKが出たので、それから沢山演奏させて頂きました。

それから次々と作品を作り今では三十曲近くになりました、中でも異色の「広島咲希望花カンナ」はドラマティックな作品になった。続きは次回、お楽しみに。(野澤松也)

連載 名優と義太夫節

【第六回】市村羽左衛門

「歌舞伎は役者を見せるもの」という。もちろん「戯曲の筋立て」も大切だが、「俳優の魅力に時を忘れる」という楽しみ方も理想的とされる。「見物は俺を見に来ているんだ」と自負し、多くのファンを持っていた十五世市村羽左衛門はその姿勢を徹底していたらしい。

「尼ヶ崎」のマクラを太夫が丁寧に語っていると十次郎でさっさと出てきて、「見物はお前の浄瑠璃を聴きに来ちゃあいねえよ。そんなに語りてえなら家へ帰ってはばかりでも語んな」。「鮎屋」の「この家の惣領いがみの権太」を本格的に凶太く語ったら「もつと粹に語らねえと出られねえ」と一喝した話が伝わる。世話物の二枚目を持ち役とされていただけに、義太夫節にまつわる話は少ない。

近年の十七代目は、六代目尾上菊五郎付きだった竹本鏡太夫の薫陶を受けた。

十七代目は十五代目と違って、役の性根を

考え掘り下げた「実事(じつごと)の人だった。『菊畑』の鬼一が菊を鑑賞している場面で、太夫が熱演のあまりバタバタと語っていたら、「俺は菊と喧嘩してるんじゃないぞ！」と駄目を出したという。

楽屋風呂は俳優が化粧を落とすために使用するの、他の者は利用しないのが幕内の掟となっていた。しかし鏡太夫は天下御免で、舞台後の汗を流しに入った。十七代目が風呂場で一緒になると、鏡太夫は硬く巨大な腹部を触らせて、「こういうお腹の遣い方をするんですよ」と発声法を教えたという。鏡太夫からは役の性根や技巧についても多く教示を受けた。

筆者は尾上菊五郎劇団付きの竹本扇太夫から前名を譲られたので、十七代目は筆者が劇団の太夫になるのだと思っていた。三代目市川猿之助の芝居に出ているとき、「オイ葵太夫。早く劇団に戻って来いよ」と声を掛けてくれた。そして「鏡太夫はこう言っていたぜ」と次の話を聞かせてくれた。「俺は鏡太夫に『お前さんは声が良すぎでいけない』と言われたんだ。つまり巧まらずして何となく言えてしまう。だから起伏が付かず一本調子になってしまう。声の悪い者はどうやって出そうかと工夫するから、セリフに情(じょう)が出てくる。君も俺に似たところがあるから出し方を工夫してみなさい」：有難いことである。

子息の坂東楽善も鏡太夫の教えを受けた。鏡太夫は「尼ヶ崎が一段語れなくなった。命までは売れない」と芝居をさっと引退し、河

内長野市の田園で悠々自適に暮らした。若き日の楽善は泊まりがけで稽古に通い、「妙心寺」の四方天のタテコトバ「コーレ我が君」などを稽古してもらったという。引退に際し鏡太夫は「未練でまた語りたくなるといけない」と残っていた歯を抜歯し入れ歯となったのだが、稽古のときに具合が悪いので外してしまった。歯無しで語ったタテコトバが素晴らしかったという。

話がそれるが、名調子で文楽の太夫からも一目置かれていた五世中村富十郎も若い頃から総入れ歯であったという。進駐軍のチョコレートを食べすぎて虫歯だらけとなり、思い切って抜歯してしまったとのこと。「良寛と子守」という舞踊劇で良寛を演じたとき、その入れ歯を外し、クシヤクシヤの口で出たので事情を知らない筆者は仰天した。

「ほかの若手も鏡さんに稽古してもらったんだけど、あんまり直されるから嫌になっちゃなくなっちゃった。もったいないと思っただねえ」と鏡太夫の薫陶を受けた楽善だが、惜しいことにその後大病を患ってしまった。扇太夫によると、「うちの劇団の若手であの子が一等良くなると期待していたんだ」とのことであった。

鏡太夫は相三味線であった野澤松三郎に「俺が死んでも誰にも知らせるな。ただし市村(十七代目)だけには知らせてくれ」と言い遺していたという。交際の深さが偲ばれる。

その後十七代目は、文楽公演で九代目竹本綱太夫(のちの源太夫)の語る「渡海屋大物浦」

(2022.7.15)

を聴き、緊密な人物表現に感銘を受けた。孫の九代目坂東彦三郎に義太夫節を習わせたいと思っていたので、稽古を願ひ出た。

菊五郎劇団という江戸の世話狂言に特色を發揮してきたが、義太夫節への造詣も欠かさなかつたのである。

*文中敬称を略しました

(歌舞伎義太夫 太夫 竹本葵太夫)

■協会・正会員の主な動き■

令和四年一月～六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

- 一月二十日(木) お江戸日本橋亭
- 二月二十日(日) 紀尾井小ホール
- 三月二十日(日) お江戸日本橋亭
- 四月二十日(水) お江戸日本橋亭
- 五月二十日(金) お江戸日本橋亭
- 六月二十日(月) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演

- 「ぎだゆう座」二月一・二日、四月一・二日、六月一・二日 お江戸上野広小路亭
- 「じよぎ」三月一・二日、五月一・二日 お江戸上野広小路亭
- 「第十一回乙女文楽公演」一月二二日(土)・二三日(日) 川崎市国際交流センター
- 「第十七回花のように香れ 女流義太夫」二月

十一日(金・祝) 蕨市立文化ホールくるる「第六回瑠璃の会」二月二十七日(日) 国立文楽劇場小ホール

「第五十一回邦楽演奏会」三月二十七日(日) 国立劇場小劇場

「第十八回はなやぐらの会」橋本治さんを偲んで」四月十日(日) 紀尾井小ホール

「第一回花の会」五月五日(木) 千代田区立内幸町ホール

「法真寺で義太夫を聴く会 その二」五月二九日(日) 法真寺本堂

【普及】

義太夫節保存会・義太夫協会主催教室

- ◆義太夫一日体験教室 二月二六日(土)、四月十六日(土) 豊川稲荷文化会館
- ◆第七四期義太夫教室 「入門コース」五月～七月(各土曜) 豊川稲荷文化会館

【運営】

◆令和四年度定期総会 六月二十七日(月) ビジョンセンター日本橋

【放送・放映・配信】

- ◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」三月十六日(水)『一谷嫩軍記』組討の段 浄瑠璃・竹本土佐恵 三味線・鶴澤駒清
- 五月十八日(水)『国性爺合戦』楼門の段 浄瑠璃・竹本越若 三味線・鶴澤賀寿

六月十五日(水)『鎌倉三代記』三浦別れの段 浄瑠璃・竹本越孝 三味線・鶴澤寛也

◆NHK FMラジオ「邦楽百番」四月二日(土)『新版歌祭文』野崎村の段 浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿 ツレ・鶴澤寛也 高音・鶴澤弥々

◆NHK Eテレ「につぼんの芸能」一月七日(金)新春を寿ぐ華麗な音色『ひらかな盛衰記』神崎揚屋の段

浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿

◆義太夫協会法人化五十周年記念公演 YouTube 無料配信 一月一日(土)～三一日(月)『長生殿』、『姫山姥』廓嘶の段、『新版歌祭文』野崎村の段

◆乙女文楽第十一回定期公演 YouTube 無料配信 三月十五日(火)～三一日(木)『傾城恋飛脚』新口村の段 浄瑠璃・竹本越孝 三味線・鶴澤寛也

■協会・正会員の今後の動き■

令和四年七月～十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

- 「女流義太夫演奏会」七月十六日(土) 国立演芸場
- 八月二十日(土) お江戸日本橋亭
- 九月十九日(月・祝) お江戸日本橋亭
- 十月二十日(木) お江戸日本橋亭
- 十一月二十日(日) お江戸日本橋亭

(2022.7.15)

義太夫協会会報 第114号

十二月十八日(日)紀尾井小ホール
正会員主催公演(協会後援分)
依頼公演・協力公演
「じよぎ」

七月一・二日、九月一・二日、十一月一日・
二日 お江戸上野広小路亭

「ぎだゆう座」
八月一・二日、十月一・二日、十二月一・二
日 お江戸上野広小路亭

「京之助の会」七月十日(日) 回向院念仏堂
ホール

「大阪女義復興プロジェクト2022」
義太夫体験教室 八月五日(金)・六日(土)
各日二回 高津宮 末広の間

【普及】

義太夫節保存会・義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室 八月二十七日(土)

豊川稲荷文化会館

◆第七四期義太夫教室

〔実践コース〕九月〜(各土曜)

豊川稲荷文化会館

■寄付

左記のご寄付を頂戴いたしました。誠に有
難うございました。

寄付 日本素義会様

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助
鶴澤津賀花・竹本駒佳・竹本越里

CD最新作 義太夫協会音源シリーズ(十一) 好評発売中!

2021年4月6日「女流義太夫 本牧亭を聴く会」公開音源

- ・恋女房染分手綱 重の井子別れの段(昭和四十四年三月・本牧亭)
- ・仮名手本忠臣蔵 祇園一カ茶屋の段(昭和四十三年十二月・本牧亭)

※竹本小津賀、鶴澤三生による特別番組(詞章付き)

価格:1,500円(税込・送料別)

<義太夫協会記録音源 復刻オンデマンドCD> 全11タイトル

壺坂靈験記・新版歌祭文・絵本太功記・御所桜堀河夜討/伊賀越道中
双六・生写朝顔話・艶容女舞衣・義経千本桜・伊勢音頭恋寝衣・近頃河
原達引・ひらかな盛衰記
その他プレス盤も取り扱っております。

お問合せ・お申込み 義太夫協会

GK-012



竹本小津賀



鶴澤三生

昭和四十四年三月二日 本牧亭
恋女房染分手綱
重の井子別れの段

昭和四十三年十二月四日 本牧亭
仮名手本忠臣蔵
祇園一カ茶屋の段

義太夫協会音源シリーズ(十二)

一九六三年発足

昭和、平成、令和と
素義の先輩諸氏、そして
女流義太夫のみなさまの
熱い思いに支えられてきました。



日本素義会

まさに「継続は力なり」。
これからも日本素義会を
よろしく願っています。

第百十七回日本素義会、令和四年九月開催予定。



神楽坂から移転しました

〒八五四一〇五一六
長崎県雲仙市小浜町富津一七四
電話〇九五七一八一〇三九二

三爪卒庵

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品の
御注文承ります。



〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687

ROE RUBY2-3
10月入荷予定



お酒を飲んだら
葡萄園夜ぶどうやへ
石川県金沢市
聖町
83の2
電話076
0263
0106

映像機材は
プロフォーカスへ
とっぞ

石川県金沢市
米泉町の62
Profocus.co.jp



永谷の演芸場は
日本の伝統芸能を応援しています

- ◆お江戸日本橋亭
- ◆お江戸上野広小路亭
- ◆お江戸両国亭
- ◆新宿永谷ホール (Fu-)

永谷商事株式会社
☎0422(21)1796
公式HP:<http://www.ntgp.co.jp/>

